

おおくら 議会だより

新緑の眩しい春がもうすぐそこに
新しい時代ももうすぐ



かた雪の朝、自転車で遊ぶ

もくじ

3月定例会	2～3P
一般質問	4～11P
初の政策提言	12P
視察・研修	13P
そうだったの！村議会	14P

風水にふれる里
第 **119** 号
2019.春

発行／
〒996-0212 山形県最上郡大蔵村大字清水2528番地
大蔵村議会 0233-75-2111
編集／議会広報調査特別委員会 年4回発行
発行責任者／議長 鈴木君徳
印刷／共栄印刷株式会社

3月定例会 平成31年度当初予算

総額52億円でスタート!

一般会計35億9千万円 特別会計16億1千万円

3月定例会が5日から8日にかけて開催され、30年度専決予算・補正予算に新年度予算案等を加えた28議案を審議可決。一般質問では7人が村当局の考えをただし、活発な議論が交わされた。

専決予算審議

- ・平成30年度大蔵村一般会計補正
(災害復旧事業対応のため)

条例等の改正

- ・道路占用料徴収・法定外公共物管理条例の一部改正
(国の法改正に伴う徴収料金の改正)
- ・村職員の勤務時間、休暇等に関する条例の一部改正
(看護休暇の対象となる年齢の引き上げ)
- ・村税条例の一部改正
(地方税法の一部改正に伴うもの)

30年度補正予算

- ・一般会計他8特別会計
(主に事業の精算によるもの)

31年度予算

- ・平成31年度一般会計他8会計
(予算委員会で審議を行い、介護保険会計を除き全会一致で可決成立)

予算審査特別委員会

一般会計

歳入

問 村民税個人分で人口が減少しているのに増収は何故か?

答 課税対象者の積算によるもの。

問 たばこ税の紙巻きタバコと電子タバコの割合は?また、増額の理由は?

答 2種類の課税があるが、区分は明記されていない。増額の理由は値上げのため。

問 税金を納入する際役場だけでなく、地区ごとの窓口は出来ないのか?

答 最近では電子申告する傾向にあり、地区公民館では対応は難しい。

歳出

問 小型除雪機購入費補助金の割合は?また、個人でも良いのか?

答 1/2補助で、上限50

万円。地区単位の申請になる。

問 村政施行100周年記念事業の計画は?

答 11月上旬に予定している。内容は他町村を参考にして検討する。

問 肘折温泉バス待合所敷地整備工事とは?

答 バス停駐車場の舗装工事。敷地は村管理のため。

問 ボトルウォーターの委託本数と注文の時期は?

答 委託本数は6,000本の予定。注文は随時。

問 入湯税の使用範囲と方法を明確に出来ないか?

答 予算書で明確にするのは不可能。

問 県営ため池等整備事業負担金とは?

答 赤松地区の事業。今年度で完成予定。

問 村道合海・大坪線の進捗状況は?

答 用地買収を進め、本工事に入る予定。

・平成31年度介護保険特別会計
反対・賛成討論を経て

「反対」 佐藤雅之

「賛成」 中島幸夫、鈴木君徳、八鍬信一、矢口 智、佐藤 勝、海藤邦夫、加藤忠己、早坂民奈、
(賛成多数により可決成立)
※長南正一予算審査特別委員長は採決に加わらず。

人事案件

・監査委員の選任

★土屋 徹氏(清水)再任

・固定資産評価審査委員の選任

★伊藤美恵子氏(清水)再任

・人権擁護委員の推薦

★大山 真照氏

(沼の台) 再任

★小屋 久好氏

(季の里) 再任



問 除雪業務委託料で、稼働日数が少ない場合の対応は?

答 業者への業務費は稼働日が極端に少ない場合(60%以下)は待機手当をつけている。

問 ド力雪キャンペーンの助成金の内容は?

答 今年はド力雪がなかったため利用はなかったが、来年度も予算を計上した。経費は3割が旅館組合、7割が観光協会と村の負担となる。

問 県への納付金が増加しているが、保険税の増加につながるのか?また、大蔵村の増加率が上位になっている訳は?

答 31〜32年に関しては増加するが何割になるかは分からない。増加の理由は、所得が多い事などを算定した結果。

特別会計

国民健康保険

問 医師派遣負担金とは?

答 山形県医師派遣事業の中で、山形中央病院から派遣されている医師の負担金。



介護保険

問 第1号被保険者の保険料収入が多くなった訳は?

答 大蔵村では9段階に分かれているが、高額納付者の対象人数が多くなったため。

へき地診療所

問 医療費収入が前年度より2,200万円減収の要因は?

答 被保険者が毎年約50人程減少しているため。



問 村内には移転等による住民のいない数多くの空き家がある。

時代の流れといえればそれまでだが、それ等による被害が冬期間に多く見受けられる。

家屋からの落雪による生活道路の閉塞や、倒壊による通行止等が多発しており、時には人命に関わる事故も考えられる。

特に問題なのは、その都度地区代表や隣近所の住民が自主的に片付けなければならない事。

答 放棄された建物の不適切な管理や、老朽化や台風等による倒壊、また、冬期間の落雪による通行止等多くの被害が起きている。その

自主性も大切な事だがこれには限りがある。

空き家の撤去は、経費や個人財産などの問題があり、容易に解決出来る事ではないが、だからといってこのままにしておいてはならない事である。

住民の自主性や理解も大事だが、行政にも何らかの手段があると思うが。

空き家の危険性と解体への考え方 村長 村主体の解体は困難



佐藤

勝 議員

の都度地区代表が所有者や親戚に連絡を取り対処している。

倒壊した住居や廃屋等の取り壊しは、個人財産であり権利・法的な面・費用負担・公平性などの問題、更に今後離村される方が、空き家の解体は村でやってくれる等拡大解釈し逆に空き家が増える事も考えられる。

また、国の空き家対策はハードルが高く、村が主体となつて廃屋の取り壊しや処理は難しい。



もう限界

問 どの集落にも高齢者の一人暮らしや、老人夫婦だけの家庭が多くなつてきた。自活の出来ない人や障害のある人は施設等の利用で対応出来るが、自活が可能な人も、一人不安を抱きながら心細く暮らしている人が多く、今後更に多くなる事が予想される。会話もなく、ただその日を虚しく過ごす生活は耐え難い事であり、あつてはならない事である。

本人の意思や理解、財政等、多くの問題があるとは思つが、時間の流れに任せにおいては行政とは言えない。現在、子育て支援を積極的にこなしている。これも大切な事だが、今後益々多くなる高齢者が、仲

間と共に楽しく余生を送る対応の一環として、集合住宅などの建設も考えなければならぬ時期なのでは？

答 村では高齢者向けの地区サロンへの支援や、介護を必要としない体力づくり教室等交流の場づくりを行っている。更にこの取り組みを充実させる為に「福祉型小さな拠点づくり事業」を計画している。

また、翠明荘に付属している支援ハウス「翠」があり、人数に限りはあるが、利用条件や経費の問題等気軽に相談し利用して頂きたい。

将来的には交流施設的な集合住宅も必要と思うが現時点での建設は考えてはいない。

高齢者向けの住宅建設を 考える時期では 村長 現時点の建設は考えていない

ここが知りたい

村政を問う

一般質問
3月
定例議会



おおくらくん25世完成式。
身長11.2m、ウエスト96.7m、体重2644t。大蔵中学校の佐藤史花さんのアイデアで、今年の干支「猪」を表現。



7議員が一般質問



5P

佐藤 勝 議員

○空き家の危険性と解体の考えは
○高齢者向け住宅を考える時期では

6P

加藤 忠己 議員

○去年8月の豪雨災害復旧の矛盾を問う
○白須賀地区基盤整備事業について

7P

佐藤 雅之 議員

○内発型で地域経済の好循環を図れ
○介護保険料など住民負担増加に対する村長の姿勢を問う

8P

八鍬 信一 議員

○国道458号線への接続道路整備を

9P

早坂 民奈 議員

○「交通弱者と買い物難民対策」のその後は

10P

中島 幸夫 議員

○四ヶ村営農飲雑用水施設の今後は

11P

矢口 智 議員

○春を迎えようとしている今「雪に思う」





加藤 忠己 議員

去年8月の豪雨災害による復旧の矛盾

村長 国、県、関係機関に対策工事を強く要望

問1 農業、農事関係については、災害の復旧工事等の補助により進捗が進んでいるが、一方、自宅や作業小屋近くの法面の崩れ等が、応急処置のままになっている。村では個人の財産である私有地の対応を、どう考えているか。

答1 農地、農業用施設、公共土木施設については順調に復旧工事も進んでいる。個人の土砂被害拡大を防止するため、ブルーシート等

による法面の養生や住宅地周りの土砂撤去等に要した費用の一部を助成している。しかしながら簡易的なものである。法面対策工事は費用が高額となり、個人では対応できない。

「急傾斜地崩壊危険区域」の、指定と対策工事を、国、県の関係機関に要望してゆく。又、



個人の私有地に村の単独事業として、公的な資金を投じることは難しい。

問2 農家の方は安堵しているが、個人の財産なのに、この差は何か

答2 農地は生産性があり、国の考えである。法面工事は簡単な工事ではなく、高額の費用が掛かる。危険な所は、別の場所に移転も考えて欲しい。立ち退きに対する国、県の補助もある。

白須賀地区基盤整備事業について

村長 3地区に分割し、スライドして実施

問 白須賀地区基盤整備が、平成29年4月に調査計画3～4年、整備工事に6～8年、総事業費が10億円を超える地区は分割採択となり、白須賀地区は3地区（白須賀南、北、二日町）と分割して進めて行く説明を受けた。その後、南、北地区が一つの地区として進めることが出来、6年前後と短くなる状況については文書回答等で理解している。しかし、二日町については村予算に計上されておらず、遅く申請している他の地区が契約を済ませ、調査が行われている。二日町が遅れるのはなぜか。

答 白須賀地区基盤整備は平成28年度より、白須賀南、北、二日町と3分割して、順次調査事業を計画している。二日町が遅れているとの事だが、3地区に分割し1年づつスライドして調査事業を実施しているためである。平成31年度に800万円の予算を計上し実施してゆく。



佐藤 雅之 議員

内発型で地域経済の好循環を図れ

村長 地域循環型の経済政策が重要と認識

問 アベノミクス効果は地方に及んでいない。「内発型・地域循環型」の経済政策が地方自治体には求められる。

二点について問う。

①地元建築業者の仕事おこしにもつながり、経済波及効果のある「住宅リフォーム総合支援補助金制度」を一定の限度額内で複数回利用できるように制度を改善してどうか。

答 ①住宅リフォーム総合支援事業は、事業創設以来、131件の申請があり、工費は6億4千万円となっている。村からの補助金は約5千万円で、村内業者による施工件数が112件。波及効果による地域経済の活性化

に大きくつながっている。平成29年度からは、2回目以降は県の補助金分に限り助成できるよう制度を改正した。

②就職等に必要な資格取得については、引き続き支援する。事業者が雇用後に実施する教育訓練等への補助は、資格を取得した個人に対し補助金を交付するという目的と同質には扱えない。事業主として独自の努力を。ただ、事業者が担う災害対応等の事業については、村としても考慮する。



介護保険料などの負担増に対する村長の姿勢を問う

村長 介護予防と生活支援の総合的な推進で

問 平成30年度第7期介護保険料は、基準額で1月6,600円となり、増加率は29.4%、県内自治体で最大となった。今年10月には消費税増税も控えている。高齢者を中心に冬期間の経済負担も含め、耐えがたい負担が重くのしかかっている。この矛盾を村長はどう考えるか。

答 本村では人口の減少とともに高齢者の人口も減少しており、高齢者の方々の生活全般に占める保険料の割合が増加していることは認識し、心苦しく感じている。しかし、介護保険の制度上、給付費が増大すれば、保険料を上げざるを得ない。村としては、「介護予防と

生活支援の総合的な推進」を基本方針に高齢者がいつまでも元気に過ごせるよう、日々の健康づくりと心身機能の維持・改善を図る介護予防に取り組み、安心して暮らせる地域の一体的な体制づくりを推進していく。





八鉏 信一 議員

「国道458号線への接続道路整備」は 村長 状況を見据えて検討する

問1 白須賀地内より現在
工事中の国道458号線に
接続する道路は、興源院の
墓地に通じる路線①と翠明
荘入口より二日町方向路線
②の2本ある。

いずれも屈曲した狭い道
路で、新国道に乗り入れ
るには非常に危険で不便
もあり、農協脇を通る現
況道路を今まで通り迂回
することになる。

安全がさらに確保される。
今後、広く便利な国道が
出来ることから、さらに利
便性のある直接乗り入れで
きる道路の整備は、地区民
のみならず村民皆の願いで
ある。

新たな接続道路の整備に
ついて伺う。

答1 具体的に村道の新設
場所を提示いただいたが、
この道路を新設すること
により、白須賀地区の皆さん
はもちろん、赤松烏川地区
の皆さんの利便性は多少向
上するものと思う。

また、保育所の前を通行
する車両が減少すること
により、園児の通園に関し
ても比較的安全性が保たれ
るものと考えられる。

接続道路について担当課
に検討させたところ、直線
距離で約200m、高低差
は3m程度であるが、部分
的に約5%の道路勾配が必
要となる。

道路幅員もある程度の交
通量が見込まれるので2車
線とし、歩道の設置も必要
となる。

道路に付帯する構造物と
しては、バイパス東側の小
河川を横断するために大規
模な暗渠等が必要となり工
事費も嵩むものと思われる。
以上のことから、新しく
村道を作ることとは現段階
で難しいと考えている。

問2 白須賀の坂道は、冬
季節路面が凍結し、赤信号
で止まるとして車が滑る時
もある。道路の消雪設備も
点検修理しているが、完全

には機能していない。
さらに信号付近を保育園
児が揃って横断しており、
車が滑って止まらないこと
などあれば大惨事にもなり
かねない。

また、基盤整備事業や、
災害復旧による大型車両の
通行も多くなり、交差点に
おいて大型車両が通れない
ことから信号待ち車両がバ
ックすることもある。

他に接続道路ができれば
交通量も減り、かなりの安
全が確保される。

人命を守り、交通安全確
保のために真剣に取り組む
べきと考えるが。

答2 国道458号第3期
区間について事業期間が4



一般国道458号線 接続道路

議員提示の接続道路を造
らないということではない。
現在工事中の国道が開通し
た後において、交通量や安
全性などの観点から必要な
場合は村道の新設について
検討したい。

年延長し、平成35年度完成
予定である旨を昨年11月に
最上総合支庁より連絡があ
った。

完成予定が延びたことに
ついては大変残念な結果で
はあるが、災害に強い安全
で安心して通行できる道路
を整備していただくために
は、致し方のないことと思
っている。



早坂 民奈 議員

交通弱者と買い物難民 対策のその後は

問 免許返納者や、運転が
出来ない、いわゆる交通弱
者や、買い物するにも店舗
も無く、困っている買い物
難民について、4年間質問

を続けて来たが、問題解決
には至っておらず、増々高
齢化が進み、今後どうする
のか2点について伺いたい。

1、交通弱者について 村長 村営バスの利便性の高い 運行を

問 自由に利用できるデマ
ンドタクシーを再度考慮し
て欲しい、又フリー乗降は
どうなったか。

答 デマンドタクシーを否
定してはならず、今後の検
討もある。フリー乗降区間
は新庄肘折間を除き、村内
循環バスや、スクールバス

については道路勾配、曲が
り角等で場所が限定される
が、早い時期、出来れば31
年度中に実施できるよう協
議したい。利用者が利用し
やすい交通機関になるよう、
利便性の高い運行に努める。



2、買い物難民について 村長 村主導の施策でなく、民間 活力を静観

問1 買い物したくとも店
が無く又遠いため、車にも
乗れず自由に出来ない。行
けないなら、家まで来てく
れる移動販売車はどうか、
今現在移動販売を行っている
方々の空白地域に、他町
より来ている業者もある。
もし、村で引き受けてくれ
れば、ノウハウを教え、任
せたいとも考えていると聞
いている。村では、引きこ
もりや、認知症予防にサロ
ンを行っているが、自分で
材料を考え料理することも
予防の一環ではないか。商
工会とタイアップし、お年
寄りに生きがいを与えて欲
しい。又人材も地域おこし
協力隊の活用はどうか。

答1 一点目の質問に関連
し、フリー乗降になれば少

しは便利になるのではない
か。

地元に住ながら買い物で
きることは、高齢者にとつ
て非常にありがたい事だが、
移動販売を始めるにあたり、
初期投資も高額となる。村
外からの販売も承知してい
るが、村主導の施策は民間
活力を疎外しかねない。当
分の間静観する。

問2 高齢者世帯や家族に
頼めない方はどうすれば良
いか、村長の考えは。

答2 近くの親戚、知人友
達等をお願いし、それが出
来なければ行政が入り、各
地区役職や保健師に相談し
て欲しい。



中島 幸夫 議員

四ヶ村営農飲雑用水施設の 取水口再整備の考えは？

村長 浄水施設の損耗も激しいことから、再整備は考えていない

問 四ヶ村営農飲雑用水施設は、平成16年に供用を開始したが、取水口の砂と水の分離ができないなどの不具合が生じ試行錯誤の結果、取水施設の使用を断念した。現在は、豊牧地区で利用していた水源を補強して四ヶ村の飲用水として利用している。現在問題はないが、今後地震などの地殻変動で水源が枯渇することも心配される。また、ポンプを使

用しているの、自然災害などでの長時間の停電も地区民は心配している。

答 飲雑用水施設は、自然流下なので取水口の問題が解消できれば、維持経費は少なくなると考える。もう一度、取水口の整備を考えるつもりはないか。

答 四ヶ村営農飲雑用水は、古水川支流の小河川の表流水を水源としていたため、融雪時期や大雨の時な

ど大量の土砂の流入が見られ、水質的にも濁度・色度が高く浄水施設の損耗が激しいことから、平成20年10月に旧豊牧簡易水道の水源や揚水施設の譲渡を受けた。一日最大給水量96㎡、計画給水人口252人として簡易水道事業の再認可を受け、現在に至っている。水源を変更してからは、水質・水量とも異常なく、1日に約60㎡を供給している。

地震等による水源枯渇は、地下水を水源としている本村の水道全てにおいて危惧される問題。

災害等により長時間にわたって停電になった場合には、四ヶ村地区簡易水道についても、水源地の水を高台にある浄水場への送水は揚水ポンプによる圧送なので、取水不能となることが予想される。そこで停電対応のための自家発電電機を設置を順次行い、四ヶ村地区簡易水道についても整備

を進めていく。

水源が複数あったほうが災害リスクを回避できるが、土砂の流入や管路の災害が頻繁に発生し、水源を変更した経緯があるので、四ヶ村営農飲雑用水施設取水口の再整備は考えていない。



旧取水施設



矢口 智 議員

春を迎えようとしている今 「雪に思う」

村長 豊かな感性を持つ子どもたちを育む

問 一つ目は「除雪」

村は道路除雪の他は困窮者への支援のみだが、このままで良いのだろうか。住民の側に立って、新たな施策展開の必要を感じるがどうか。

二つ目は「産業・交流」

新しい産業の、あるいは交流の継続的な「資源・魅力」として、人を圧倒するような魅力がまだ隠されている気がしてならない。雪の真の魅力を今一度考

えるべきだ。

三つ目は「教育」

大人の目から見ての価値判断でなく、村の子供たちが、将来この雪国で生きていくことに価値観を見いだせる教育的な配慮、メッセージが必要。

答 村長

一つ目の「除雪」

その時代にあった形の施策は、当然必要なものであつて住民の方々の時代にあつたニーズを的確に判断し、

村政運営に反映して行くことが、私の使命。今現在どのような施策が必要なのか、今後皆様方と相談しながら行っていきたい。

二つ目の「産業・交流」

雪の真の魅力を今一度とのことですが、村の、とりわけ四ヶ村、肘折の雪には計り知れないポテンシャルを感じている。厄介なものであることは間違いない。オリンピックのように4年に1回降る雪でもなく、毎年ほぼ同量の計算できる雪が降る。多くの村民の皆さんのご意見を伺い、全国に誇れる冬・雪イベントを誕生させたい。

三つ目の「教育」

教育長

一点目は、雪のプラスの側面に着目して学習を展開したい。

雪国から学びを实践していくこととして、○雪を体感する（自然体験）○雪で交わる（交流・協働）○雪

で知る（地域文化）○雪で運動する（健康・運動）○雪を科学する（科学・防災）○雪を活かす（エネルギー！環境）こういった様々な分野でも、雪があるからこそできることで、子どもたち

こそ生活できるという自信と誇りを伝えるとともに、雪国という厳しい環境の中で磨かれた豊かな感性を持つ子どもたちを育んでいきたい。

もう一点は、議員がよく話されるように、雪国だからこそ待ちどおしい春が来る。厳しさがあるからこそ、その後に待っている太陽の暖かな日差し、自然あふれる土の匂い、木々の芽吹き、

生きる力を本当に実感、体感できる。それは雪国という厳しい環境を乗り越えるからこそ喜びが味わえる。雪があるから



雪遊び

政策提言書

平成31年2月27日

村政施行130周年を迎え、そして、平成から新しい時代へと向かう今、村議会が住民から賜った貴重な御意見を基に、村政全般にわたり政策提言をしたい。

村の産業全体の活性化のために、子育て環境のさらなる充実のために、そして、村民が安心して暮らせる生活環境向上のために。

1 子育て支援

子育て支援住宅から宅地分譲地の造成まで各種支援事業を展開しているが、子育て環境のさらなる充実のため、支援策全般の再構築を求める。

- 保育体制の全面的見直しと保育・教育の連携強化を
- 若者世代の住宅建設へ手厚い支援策を

2 観光地の整備促進

村で唯一の歴史ある観光保養地「肘折温泉」全体の整備を求める。

- 温泉街の集客施設(肘折センター・旧郵便局舎)整備計画立案を
- いでゆ、カルデラ館等活性化施設機能全般の再構築を

3 中山間地の農業支援

来年度開催の棚田サミットを契機として中山間地の農業政策の充実を求める

- 棚田サミットを機会に村独自の新たな振興策を
- 中山間地独自の産品開発を

4 豊かな冬の暮らし

全国有数の雪国。道路除雪日本一に加え私有地除排雪の支援策を求める。

- 集落、地域単位での共同除排雪作業支援策を
- 村独自の除雪機導入支援を
- 生活道路の整備促進を

5 住民参画の村づくり

役場庁舎の再整備等これから進める諸政策全般において、住民や有識者の参画による村民納得の事業推進を図ることを求める。

以上、新しい時代に向けて中長期的視野に立ち、小さい村だからこそできる独自の諸政策展開を期待し、村議会からの政策提言とする。

※今後、村と具体的に協議を進めていきます。

視察・研修

「東京中央要望」

議会運営委員会

公共事業の早期促進を図ることを目的とし、1月30日から31日の日程で上京。本県選出国会議員の加藤衆議院議員と舟山、大沼両参議院議員を訪問し、一般国道458号の整備促進、主要地方道戸沢大蔵線の整備促進、東北中央自動車道建設促進、一般国道47号・地域高規格道路「新庄酒田道路」の整備促進、農業競争力強化基盤整備促進と併せ、大雪等も予想されたため、村道や家屋の除排雪など豪雪対策支援についても、要望してきまし

た。特に一般国道458号の整備促進については、本県の産業経済や社会経済を支える大動脈となる路線であり、残す、白須賀から上竹野地区までの第3期施工区間の一層の事業促進と、肘折温泉から寒河江市幸生間の災害防止対策などに、大きな期待をするところです。

その後、議会運営の取組みを研修するため、国会議事堂で衆議院本会議を傍聴。会議の途中で度々議会運営委員会が開催さ



れ、適正かつ妥当な議事進行がなされていることに、議会運営委員会の重要性を強く感じてきました。

傍聴した経験を活かしながら、大蔵村議会においても、より円滑な議事運営を持つて適正な議決が得られるよう、なお一層の努力をしていきたいと考えています。

冬期村内道路調査

冬期間の村内道路状況調査を2月5日実施しました。

調査当日は晴天に恵まれ、村内を限なく巡回してきましたが、地域それぞれ降雪量や積雪量の違いこそあれ、住民の生活から切り離すことのできない冬の厳しさを、改めて痛感したところです。

国・県道はもとより幹線的村道については除雪が行き届き、通勤通学や日常生活に支障をきたすような危険箇所は見受けられませんが、一部山間部では小規模な表層雪崩や車両に接触の恐れのあるブッシュが散見し、通行上危険と判断されることから、雪庇除去等の対応をお願いしました。

一方、国・県道の消雪施設が老朽化やパイプのつまり等が原因で、一部支障をきたしているため、引き続き管理者である山形県に対し、改善の要望を行う必要を感じました。

このような中、大坪地区に設置された防風雪柵や沼の台地区の上山橋付近で実施した雪崩防



鍵金野地区

止のための斜面の成形は、一定の効果が現れました。

冬期間の除雪計画は、村道約62kmを計画路線として、除雪機械14台をもって冬期交通の確保に努めています。

全国的にも名だたる豪雪地ですが、行政と除雪に携わる業者等関係者の努力により、地域住民の安心と安全が確保されていることに安堵したところです。

今後とも除雪体制日本一を目指し、除排雪体制の充実強化を図っていきます。

そうだったの！ 村議会

村議会の紹介コーナー

No.15

平成～新しい時代へ

政策提言を終えて

平成の最後となる今年2月27日に、大蔵村議会初となる「政策提言書」を村長に提出しました。

新聞記事わずか25行。気づかない人も多かったと聞きますが、4年前から議会議員全員で、様々な改革に取り組み、その到達点としての「政策提言」なのです。

—これまで—

平成28年から3年にかけて議会報告会を開催し、多くの方に足を運んでもらい、たくさんの御意見を頂戴しました。また、平成30年には議会主催の懇談会を肘折温泉関係団体や村地区代表者会の出席を得て開催し、貴重な御提言等もいただきました。また、私達も視察や研修を通して、様々な議論を重ねてきました。

直ぐに解決できるものではありませんが、村民の思いを村執行部へ伝え課題を共有することにより、少しでも前に進めたい。そんな思いで「政策提言」へと繋げてきたのです。

—これから—

初めての政策提言は村議会のほんの一步目。乏しい内容かもしれませんが、これらの活動を継続することにより、少しずつ課題が解決し、そして、村民の皆さんから納得していただけるようになって信じています。

次期議会の任期は、新しい時代の1, 2, 3, 4年春まで。厳しい時代となろうとも、皆さんと共に前を向いて歩んでいけることを願っています。



後書き

ギネス記録の巨大雪だるま、

「おおくら君」も今年で25世。今

年は、やや小振りとはいえ四半世紀の間、豪雪の村のシンボルとしてその役割を果たしてきた。

温暖化が叫ばれて久しいが、積雪は今年のように少ない年もあれば、昨年のように観測記録を更新するときもあり、素人目に自然は、予測不能。

考えてみれば、バブルの崩壊に、自然災害、急激なIT化など、「常識」や「想定」が次々とくつがえされた平成の時代は、一筋縄にはいかない時代の象徴でもあった。

不確実な時代にあって、変わらぬ強い信念や習慣、伝統に従うことが果たして美徳なのだろうか。だからと言って時流に流された先に希望があるとも思えない。

何を引き継ぎ、何を大胆に改めるのか。合意形成は、「じっくり早く」行わなければならないのが、村の大きな課題ではなからうか。

あつという間の4年間だったが、議会だよりを毎回楽しみに読んでくれた住民の皆様には心からの感謝を述べたい。村の歴史の重みを感じつつ、次の時代を次の議会に託して、我々村議会議員の任期も間もなく終える。

(佐藤 雅之 記)

議会広報調査 特別委員会

委員長	矢口 智
委員長	早坂 民奈
委員	佐藤 勝
委員	佐藤 雅之

